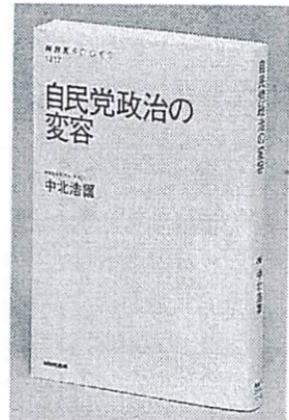


に小選挙区比例代表並立制が導入された。



中北浩爾著

## 自民党政治の変容

「自民党政治」という言葉から何を思い浮かべるだろうか。選挙における得票や政治資金提供への見返りとして特定の個人・団体・企業などに利権を分配する利益誘導政治。あるいは派閥、族議員、個人後援会などを中心とした「政治とカネ」の問題。いずれも誤りではない。しかし、「自民党＝利益誘導政治」と考えるのではなく、逆に利益誘導政治からの脱却の歴史として自民党政治を再検証するという野心的な試みが本書である。

キーワードは党執行部の強力な指導体制と集権的な全国組織の確立を目指す「党の近代化」である。その陣頭に立った岸信介は衆議院の小選挙区制導入に取り組むが、野党の反発で頓挫する。大平・中曾根政権下では逆に、香山健一らアフレーンの活動によつて、中選挙区制に基づく派閥

・個人後援会の役割が再評価されたが、80年代末にリクルート事件が起き、抜本的政治制度改革を求める声が沸騰。55年体制の崩壊を経て、つい

「自民党政治」という言葉から何を思い浮かべるだろうか。選挙における得票や政治資金提供への見返りとして特定の個人・団体・企業などに利権を分配する利益誘導政治。あるいは派閥、族議員、個人後援会などを中心とした「政治とカネ」の問題。いずれも誤りではない。しかし、「自民党＝利益誘導政治」と考えるのではなく、逆に利益誘導政治からの脱却の歴史として自民党政治を再検証するという野心的な試みが本書である。

結果、確かに党は「近代化」した。だが、右傾化を含め現在の自民党政治の姿は、果たして民意に添つたものなのだろうか。多種多様な国民の意見に対応する多元主義政党として成熟するという「近代化」がおろそかになつてはいないだろうか。「政治とカネ」の問題も解決したわけではない。自民党の変容と現代政治を見通すために、是非一読を勧めたい。

(九州大准教授・政治学 大賀哲)

なかきた・こうじ  
1968年生まれ。一橋大学大学院社会学研究科教授(政治学)。